

天堂里的秘密花园

<p>おじさんはいつも話すように、自分の家の庭には天堂があると言っています。彼は私たちに言うことは何でもありますが、この庭は本当に特別な場所らしいです。</p><p></p>

<p>第一に、おじさんの天堂の入り口には、古い木々で囲まれた門があります。門の前には、小さな石碑があり、その上には「たしはおじさんに天堂」と刻まれていました。これを見ると、私たちはこの庭が実際にあるのかどうか疑問を感じ始めました。</p>

<p>第二に、門を入ったところからすぐ左手にある小道は、自然の中に入る感覚を持っています。周りからはっきりとした音や光がなく、小道沿いの雑草や低木で覆われていて、それぞれ異なる香りが出ています。この景色を見ていると、彼らの言葉とは違う世界であることがわかります。</p><p></p>

><p>第三に、中盤まで進むと、高い松林になります。それらは長く伸びた枝先で天空を覆っており、その間から一部だけ陽光が差し込んでいます。その様子を見ると、これらの樹木が守護者のように存在しているようであり、私たちをお導きする何かのような気がします。</p>

<p>第四に、松林の中央にある池では鶴や亀など多くの動物たちが生息しています。水辺では美しいカワセミやタナゴなどの甲虫も見られ、一時的に現れる蝉の大きな声にも興奮してしまいます。この池はいずれにしても自然界の美しさを象徴していると思われれます。</p><p></p><p>第五におじゃんされるのは、この庭園の一番奥深くにある小さな秘密の花園です。あなた方より少し年下のおねえさんが作っているというほど美しい蔓や植物々を見ることができます。それぞれ異なる色彩と香りに満ちており、私たちはその魅力にとことん引き込まれていきます。</p><p>最後にお父様についてですが、彼自身にもこの庭での時間は大切ですね。他人に見られることを気にするようなことは全くなく、あえて独特な趣向を凝らしており、それによってここがおじさんの天堂になったのだと思います。また、彼の人生におけるこれらの経験はずっと後になっても忘れることはできませんし、新しい思い出を作るために毎日新しい発見があるのも楽しみですね。</p><p></p><p>下载本文pdf文件</p>